■最上徳内 探検家。貧農の出ながら本多利明高弟となり、エトロフに渡って幕府の蝦夷直轄の端緒、以後裕福な暮らし。
もがみとくない
自然真営道・1755＝ 出羽国村山郡楯岡村で、貧農高宮甚助の長男に生まれる。

大岡忠光没・1760＝ 5歳：

加賀千代句集1764＝ 9歳：

寺子屋にも行けず、家業を手伝いながら育ち、

・・・・・・1769＝14歳：近傍の烟草屋に雇われ、

地方行商などをしながら、勉学につとめ、

田沼意次老中1772＝17歳：
大原騒動・・1773＝18歳：

黄表紙始・・1775＝20歳：甕岳に登り、武士になろうと決心する。

・・・・・・1780＝25歳：父が死去、

・・・・・・1781＝26歳：遺言により江戸に出て、奉公三転の後、幕府の医師山田宗俊(図南)の家僕となり、

天明大飢饉始1782＝27歳：諸家について、医学や算学を学んだ後、

蘭学階梯・・1783＝28歳：この年、娘が誕生。江戸随一の学者本多利明の音羽塾に入って天文、測量を学び、その高弟となる。

蝦夷初調査・1785＝30歳：*利明の推薦で幕府の蝦夷地調査一行の竿取となり、名を最上徳内と改めた。活躍が認められて、

田沼意次失脚1786＝31歳：東蝦夷地巡見使の先陣役を命じられ、国後島、択捉島を調査し、ついでウルップ島に渡る。

政変で幕府の政策が変わり、任務を解かれたが、その間に

・・・・・・1788＝33歳：結婚した。

初の横綱・・1789＝34歳：国後、目梨地方のアイヌの蜂起調査のため幕府の密偵青島俊蔵らと松前に渡る。青島が松前藩に助言を与えたかどにより処罰された際、不運にも連座して投獄されたが、疑いが晴れ、

異学の禁・・1790＝35歳：調査結果を「蝦夷草紙」にまとめた。それが評価されて、普請役下役、

混浴禁止・・1791＝36歳：*普請役に取り立てられ、蝦夷地巡見隊の隊長として、東蝦夷地からクナシリ島までの調査と、幕府が直接関わることで、不正な商人からアイヌを救済する“御救交易”を実施、

ラスマン来日・1792＝37歳：西蝦夷地と樺太(サハリン)を探検、北緯48度付近まで達する。

松平定信引退1793＝38歳：帰府すると、本所石原町川船改所出仕となり、現地視察して、

写楽・・1795＝40歳：「関東十州川船改所用地図」を書いて上納、

プロトン来航・1796＝41歳：多年の功により市ヶ谷に宅地を賜る。

古事記伝・・1798＝43歳：*蝦夷地を幕府直轄とする総巡見隊長近藤重蔵を支えて択捉島に渡り、日本領土を示す標柱を立てる。

蝦夷地直轄始1799＝44歳：東蝦夷開発の一員として現地に赴くも、道路工事を視察に来た松平忠明と意見が衝突して免職となり、

伊能測量始・1800＝45歳：

ペリ来航・1804＝49歳：東海・関東の漁村を巡回し、輸出用海産物を調査する。

青洲麻酔手術1805＝50歳：翌年にかけて、目付遠山景晋の西蝦夷地調査を案内、

ペリ船狼藉・1807＝52歳：蝦夷地全体が上知されたのに対応して、箱館奉行支配調役並となり、ロシア人フヴォストフによるエトロフ島襲撃事件後の現地調査にも従事、

フェートン号事件 1808＝53歳：間宮林蔵と松田伝十郎にカラフトが島であることを確かめるよう依頼、

浮世風呂・・1809＝54歳：その侵寇無しと判断して、江戸に帰り、

・・・・・・1810＝55歳：*御簾中様御広敷添留へ昇進した。

以降、探検遠征から退くものの、幕府の要職について、盛んに著述を行ないながら裕福に暮らし、

水野忠成老中1818＝63歳：

・・・・・・1826＝71歳：シーボルトが江戸に来た際、その求めに応じて自分の蝦夷地測量図を貸し、アイヌ語辞典編纂を援助。

日本外史・・1827＝72歳：

シーボルト事件・1828＝73歳：平田篤胤を頻りに訪問したり、

富嶽三十六景1831＝76歳：近くの松浦静山を訪ねて歓談するなどして、

・・・・・・1836＝81歳：没した。

シーボルトはその著「日本」にこれらのことを載せ、徳内の業績をたたえた。他の著書に「蝦夷草紙後編」「度量衡説統」などがある。

吉川弘文館人物叢書、「人づくり風土記(山形)」,「この人どんな人」,「没年日本史人物事典」,平凡社百科事典,「目でみる日本人物百科」,